

《担当者名》巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp

### 【概要】

医療ソーシャルワーク実践は、人生(妊娠、出生、疾病、人生の最終段階)で出逢う生活課題を抱える人に社会システムを活用した支援とともに、解決できない課題に対応する社会を変えることに関心を持つ実践である。

本講義では、妊娠・病とともに生きる人々の事例検討や家庭訪問・フィールドワーク等の実践的な体験を通じて、医療ソーシャルワークに関わる諸問題に対する自らの関心を深め、理解・考えを明確化することを目指す。

### 【学修目標】

1. 妊娠・病と共に生きるクライアントの生活課題・ニーズを説明できる。
2. 実践事例に対する臨床推論を行うことができる。
3. チーム医療の構造と医療ソーシャルワーカーの役割を説明できる。
4. 妊娠・病と共に生きる上での生活課題と社会構造に対する自らの考えを述べるができる。

### 【学修内容】

| 回  | テーマ                        | 授業内容および学修課題  | 担当者                |
|----|----------------------------|--|--------------------|
| 1  | 見えない妊娠クライシス                | ・医療ソーシャルワーク実践オリエンテーション。<br>・予期していない妊娠/計画していない妊娠の背景にある社会的側面を例示できる。  | 巻                  |
| 2  | 社会的ハイリスク妊婦をめぐる医療ソーシャルワーク実践 | ・社会的ハイリスク妊婦を取り巻く環境(0日死亡、内密出産・ガイドライン)を説明できる。<br>・模擬事例をもとに意見交換ができる。  | 巻                  |
| 3  | 医療を必要とする子どもと暮らし続けられるために    | ・医療的ケア児や親の暮らしぶりが例示できる。<br>・医療的ケア児への支援と地域活動の説明ができる。<br>(北海道医療的ケア児支援センター・医療法人稲生会 高波千代子氏)                   | 高波千代子(特別講師)<br>巻   |
| 4  | 多職種チームで取り組む医療ソーシャルワーカー実践   | ・多職種チームモデルと発達段階の説明ができる。<br>・信念対立解明アプローチについて説明できる。  | 巻                  |
| 5  | 人生の転換期における臨床推論             | ・模擬事例情報(医療費が払えない、家に帰りたいなど)をもとに、背景を推察することができる。<br>・事例情報の背景にある社会システムを例示することができる。                           | 巻                  |
| 6  | 人生の転換期における医療ソーシャルワーク実践     | ・医療の場で自己決定支援・選好形成支援が求められる背景を説明できる。<br>・模擬事例を基に選好形成支援の検討ができる。   | 巻                  |
| 7  | 急性期医療におけるケース発見と地域ネットワークの構築 | ・急性期医療で顕在化する生活課題(児童虐待等)が例示できる。<br>・要保護児童等対策協議会、臓器移植ネットワークに関する医療ソーシャルワーク実践の実際が説明できる。<br>(講師：手稲溪仁会病院 辻丸栞氏) | 辻丸栞<br>(特別講師)<br>巻 |
| 8  | 身寄りがない人との医療ソーシャルワーク実践      | ・病院が「身寄り」に期待する機能を説明できる。<br>・家族・LGBTQのパートナーが代理意思決定することについて検討することができる。                                     | 巻                  |
| 9  | 人生の最終段階における臨床推論            | ・人生の最終段階にいる模擬事例情報をもとに、背景を推察することができる。<br>・人生の最終段階における医療・ケアの意思決定ガイドラインのポイントが説明できる。                         | 巻                  |
| 10 | 人生の最終段階における医療と医療ソーシャルワーク実践 | ・アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について説明し、取り組むことができる。   | 巻                  |
| 11 | 病とともにこの街で暮らし最期を迎える         | ・過疎地域における医療提供の実情が説明できる。<br>・地域に展開する医療ソーシャルワーク実践を検討することができる。  | 巻                  |

| 回  | テーマ                     | 授業内容および学修課題   | 担当者 |
|----|-------------------------|---|-----|
| 12 | 在宅生活を支える臨床推論            | ・在宅療養事例について、臨床推論ができる。<br>・家庭訪問で、利用者に質問する内容を検討することができる。                              | 巻   |
| 13 | 家庭訪問・フィールドワーク           | ・在宅で暮らす利用者宅への家庭訪問を行い、病とともに地域で暮らす人の想いを伺うことができる。                                      | 巻   |
| 14 | 地域での暮らしを支える医療ソーシャルワーク実践 | ・地域で暮らす利用者の暮らしぶりと関係者の関わりを知ることができる。<br>・地域生活を継続する上で必要となることが検討できる。                    | 巻   |
| 15 | 医療ソーシャルワーク実践・まとめ        | ・今日的な社会の動向を踏まえ、医療ソーシャルワーカー業務指針の改定案を検討することができる。<br>・医療ソーシャルワークが果たす社会的役割を述べるすることができる。 | 巻   |

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

・参加態度(40%)、ゲストスピーカーリアクション・授業内記録物(60%)。

#### 【教科書】

講義資料としてプリントを配布する。

#### 【参考書】

日本医療ソーシャルワーカー協会（2023）『保健医療ソーシャルワークの知識と技術』中央法規  
成清美治・竹中麻由美・大野まどか（2020）『保健医療と福祉』学文社  
佐藤択代・松岡紀子・松尾みさき・赤尾さく美（2023）『妊娠を知られたくない女性たち』日本看護紀要会出版社  
NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会『医療福祉総合ガイドブック 2024年度版』医学書院  
その他、講義内で紹介、または資料配布する。

#### 【備考】

- 1．医療ソーシャルワークをめぐる最新の情報・状況をもとにした授業とするため、授業内容は一部変更の可能性はある。
- 2．家庭訪問・フィールドワークでは、直接又はオンラインでの家庭訪問を予定(前後の授業回と連動)する。
- 3．GoogleClassroomを利用して学習課題の提示、最新情報の情報提供を行う。

#### 【学修の準備】

- 1．次回の講義のテーマについての事前学習や講義内で指示する課題に取り組む。（予習1時間）
- 2．特別講師の講義を踏まえ、自分の「考え」をまとめたレポートを作成する。（復習1時間）
- 3．医療福祉に関する最新動向に関心を持ち、新聞等による情報を把握する。（予習復習1時間）
- 4．講義・演習・実習、社会生活を通じた学習とのつながりに関心として示すことができるようにする。（予習復習1時間）

#### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2:福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。  
DP4:保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

#### 【実務経験】

社会福祉士、認定社会福祉士（医療分野）、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

#### 【実務経験を活かした教育内容】

病院・相談機関・居宅介護支援事業所でのソーシャルワーカー(社会福祉士・介護支援専門員等)としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。